

アフリカの稲作振興

初のビジネスフォーラム

農村ニュース 2面 23
5/30

JICAは22日、ホテルニューオータニ東京で初の「AFICA-Business Forum」を開催した。JICAは日本企業の強みであるコメ栽培の機械技術を通じ、アフリカの稲作振興に協力しており、アフリカ進出を検討している日本の民間企業を対象に、市場規模が大きい5カ国で、農業に関する情報や製品展示・実証、デモンストレーションの機会を提供している。今回は各国の政策担当者を日本に招待し、それぞれの国が抱える農業の現状や課題、ニーズを民間企業と共有した。

22日は、ケニア、タンザニア、ガーナの政府関係者と民間セクターの担当者が登壇した。

ケニアは、人口の大部が農業に従事し、GD

Pに大きく貢献している。機械化率は、ケニアで30%、タンザニアで25%。政府は、民間セクターのイニシアチブで、機械化率50%を目指している」とした。

タンザニアは、「タンザニアは、農業機械化を進めており生産性が低いことが課題となっている。機械化の課題として、灌漑設備などのインフラが整っていない事のほか、機械の整備やメンテナンスができる人材が不足していること、機械が輸入のためスペアパー

トでは日本の民間企業のサブサハラアフリカでの活動を支援し、稲作の機械化を目指している。田植えはほとんど手作業で行われているため、専門

ツをタイムリーに入手できることや機械コストなどを挙げた。そして、日本の農業機械は堅牢で信頼性があると話し、日本企業のビジネス進出や投資を希望した。

各國の発表でケニアは、「成長戦略のケニアビジョン2030で農業の機械化を位置付けており、民間団体のイニシアチブで、機械化率50%を目指している」とした。

タンザニアは、「タンザニア農機化戦略を打ち出しており、AFICAのイニシアチブを通じて農業機械化を進めてきた。農機化の課題として、日本農業機械工業会の田村専務や、農業機械化協会の藤盛専務なども

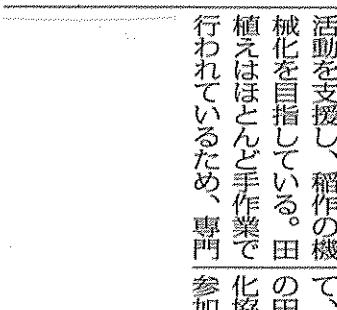
ケニアの発表



タンザニアの発表



ガーナの発表



行われているため、専門

会場では活発な意見交換が行われ、有識者とし